

## =第22号=

発行：2004年11月1日

編集：立命館大学応化会事務局  
編集責任者：北尾 舒彦

〒525-8577

滋賀県草津市野路東1-1-1  
立命館大学応用化学系事務局

TEL. 077-561-2658

RITS  
立命館大学

## 応化会ニュース

## 会長就任挨拶

会長 木村 碩 志

(昭和二十七年卒)



改革して参りました。また、今年応化会も設立二十周年を迎え記念式典を六月十九日に京都タワーホテルで二百名の会員を集め盛大に挙行政致し、感激の余韻がまだ心に残っております。

錦秋の候、会員の皆様方には、各分野において益々ご活躍の事お慶び申し上げます。又、日頃は応化会の運営につきまして、何かと格別のご支援、ご協力賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、この度、さる六月十九日第八回総会におきまして、はからずも皆様方のご推挙を賜りまして、されたことはまだ記憶に新しい処であります。

立命館大学の理工学部は今年で設立六十五年を迎え今や日本の私学の雄として君臨するまでに発展

あります。

私も応化会の目的の一つは「会員相互の親睦を図る」事にありますので、この目的に沿った運営を心掛けていきたいと思っております。

現在応化会のメンバーは全国で九千余名が名簿に掲載されておりまして、関東支部、東海支部に続く支部の設立が今後の課題となつております。

会員が増え参りますと、全国から一堂に会する事は、何周年記念とか、何か大きな行事がある時でないとか、中々難しいと思われまして、各地で支部を作つて頂いて、地域ごとに応化会支部の懇親会を開催していただき、年に一回か、何年に一回は各支部長、役員を含めた集まりを開催すれば如何かと考えております。

また、二つ目としまして会員が楽しく親睦をするために各種の同好会やリクリエーション的な物を増やしてはどうかと考えております。現在①徒行会 ②懇親ゴルフ会を毎年実施して居りますが、さらに皆様方のご提案によって同好会のようなものを作って懇親の輪を更に広げて頂ければ幸いです。

三つ目として、名簿の管理であります。最近各種名簿による第三者の不正使用がマスコミ等で伝えられております。会員名簿は一に正確性、二に迅速性が必要とされますが、今一番の問題は如何にその名簿を安全に管理するかと言う事が問われております。不用意に廃品に出したり、不用意にコピーを他人に取られてそれを悪用されますと「オレオレ」詐欺のような問題を起す可能性が起るかも知れません。会員名簿の管理に就いては幹事会でもよく相談して、より良い方向に持っていくように致したいと存じますが、皆様からも良いお知恵がありましたらお聞かせ頂きたいと思っております。

どうか、これからも会員の皆さん方と共に母校立命館大学と応化会の益々の発展のために、微力では御座いますが努力を尽くしたいと思っておりますので重ねてご支援、ご鞭撻を賜りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

簡単に御座りますが、就任のご挨拶と致します。

# 近況報告

応用化学系前期学系長 小島 一 男



ごしてしょうか。

旧化学科同窓会が発足して二十年以上が経過し、去る六月十九日(土)、京都タワーホテルに於いて、応化会の「創立二十周年記念祝賀会」が盛大に開催されましたこと、謹んでお慶び申し上げます。

さて、今日、少子化に伴う大学受験者数の減少、国立大学の独立行政法人化、大学評価の時代の到来など、大学を巡る大きな情勢の変化の中にあつて、本学の理工学部に関して、本年四月に、情報理工学部が新設となり、また理工学部の工系三学系では発展・改

編に伴い「電子情報デザイン学科」、「マイクロ機械システム工学科」、「建築都市デザイン学科」が増設され、一学系三学科体制となりました。

応用化学系にあつても、ここ数年、将来構想検討委員会を中心

に、より特色を出した、インパクトの高い学系に拡充・発展させるべく検討を重ね、昨年度、将来構想案としてまとめるに至りました。この案を基に、是非とも近い将来に応用化学系の新展開を実現させたいものと考えております。

ここで、教員の移動についてご紹介いたします。近藤絨一先生、谷利陸平先生は、三月末で定年退職になり、四月からは特別任用教授として引き続き講義を担当しておられます。また、菊池正和、鈴木健二、高橋卓也、長野正道、藤田典久の五名の先生は、四月に、情報理工学部生命情報学科に移籍

されました。さらに、新任教員として、前述の将来構想案に基づき、新進気鋭の西尾悟先生、前田大光先生をそれぞれ応用化学科と化学工学科にお迎えしました。

応用化学系と生命情報学科は、今年度、緊密な協力体制をとりながら、学部や大学院の教育研究活動を行っており、例えば、応用化学系所属の学部卒業研究生二七名中三六名が、また博士課程前期課程の大学院生一二名中十三名が、生命情報学科の教員に指導を受けています。

上述のように、昨今、種々の点で大学が評価され、競争が激しくなる中で、教育面はもちろん特に研究面においてその成果を内外に発信することが重要となつて来ました。応用化学系では、科学研究費補助金を始め、二十一世紀COE、ハイテクリサーチ、学術フロントリア、バイオベンチャー、放射光(SB)研究、オーブンリサーチなどのプロジェクト研究や各種共同研究、受託研究などを通じて学外研究資金を獲得し、質量両面において研究活動が活性化するように努めております。この点、会員の皆様の益々のご理解、ご支援を

いただきました、何卒よろしくお願

い申し上げます。次に、貴重な誌面をお借りすることになりますが、昨年のこと、ある文献との出会い、再会と言つたほうが適當かもしれませんが、それについて書かせていただきます。

フェロセンは、二つのシクロペンタジエニル基間に鉄原子がサンドイッチした化合物としてよく知られ、本学系でも何名かの先生がその関連化合物を研究対象としておられます。私の研究室では、ゾルゲル法によりフェロセンをシリカ(SiO<sub>2</sub>)ゲル中に固定化して着色物質を作ってみることにしました。実験開始後一週間ほどして、院生の眞田君の言うには、時間が経つと試料がフェロセンの黄橙色から青緑色に変化するようなのです。

そこで、岡田先生にお聞きすると、フェロセンの酸化物であるフェロセニウムイオンを含む塩はブルーになり、酸性溶液中における酸化反応はフェロセンにプロトンが付加して起こると言われているとのこと。また、書物からフェロセンが電気化学的に酸化されることも

ロセンの溶液を定電位電解させていただき、電極付近の溶液が青色になることを確認しました。結局、

青緑色ゲル試料、フェロセニウム塩、および青色電解液のいずれの吸収スペクトルにも、六一五nmに同様の吸収バンドが認められたことから、ゲル試料が青緑色となつたのは、一部のフェロセンがフェロセニウムイオンに酸化されたためとわかりました(フェロセンが多

く残ると緑色が強い)。では一体、フェロセンがゾルゲル反応中どのように酸化されるのか。検討の結果、試料表面のヒドロキシル基からプロトンが外れ、それがフェロセンと反応するのではという考えに及びました。

この考えの妥当性についてさらに思案していた昨年六月十九日、BK Cへの移転以来ほとんど見るままだにして古いファイルを何気なく手にしたところ、そこに一九九〇年の「化学と工業」誌の「トピックス」欄(八二四ページ)の古武英昭という先生が、「Y型ゼオライト内のメタロセン類の構造とダイナミクス」という記事で、

ゼオライトにフェロセンを相持させると酸化される云々、と文献紹介をされているではありませんか。早速、その論文 (G. A. Ozin et al., J. Phys. Chem., 93, 878, 1989) を

読んでみると、フェロセンとゼオライトのヒドロキシル基とが反応してフェロセニウムイオンが生じる旨が議論されていました。

このような、その時の関心事にフィットしたことが何かの機会にふと現れるような経験は、会員諸氏も幾度かお持ちではないでしょうか。

今回の私と文献との出会いについては、衣笠で化学科の一員に加えていただいたときから周りにフェロセンを扱っている先輩がおられる自分でもその錯体としての電子状態などに興味を持ったことから、当時コピーしてすっかり忘れていたものが十数年してBKICで突然姿を現した、そんなふうに感じています。



# 総会・記念式典

本年六月十九日(土)午後、京都タワーホテルに於いて第八回総会が開催された。一五〇名の会員が出席し、二〇〇三年度事業報告および決算報告、役員選出、二〇〇四年度事業計画および予算などの審議が行われた。松田幹事の司会で開会し、まず過去三年間に逝去された会員に対して黙祷をおこなった。続いて、田村会長および小島学系長の挨拶の後、議長に香山氏を選出し、議事が進められた。

総会終了後、同会場にて、本会創立二十周年記念祝賀会の式典が開催され、その後、フリープロデューサー木村政雄氏による記念講演「サー木村政雄氏による記念講演会が「こうすれば伸ばせる! 人間の賞味期限」と題して行われた。

## 記念式典

### 総会での議事内容

一、松田幹事より、前回総会以降の応化会の経過等について報告があった。

二、白石幹事より二〇〇三年度事業報告、澤村幹事より二〇〇三年度決算報告が行われ、会計監査報告の後、承認された。

三、松田幹事より会則変更に関する提案説明がなされ、審議の上、了承された。

四、役員選出について松田幹事より幹事会での審議経過が説明され、原案通り承認された。(詳細は別表参照)

五、二〇〇四年度の事業計画と予算案についての提案説明が白石、澤村幹事からなされ、質疑の後、承認された。

総会終了後、同会場にて、本会創立二十周年記念祝賀会の式典が開催され、その後、フリープロデューサー木村政雄氏による記念講演「サー木村政雄氏による記念講演会が「こうすれば伸ばせる! 人間の賞味期限」と題して行われた。

記念祝賀会の第二部として懇親会が薩の会場で引き続き開催され、会員の家族を含め二〇一名が参加した。酔いの回った項には、アトラクションとして豪華旅行券始め、多数の商品の用意されたビンゴゲームが始まり、二時間あまりにわたって和やかに親睦を深めた。



左上：総会  
右上：記念講演会  
右下：懇親会

# 『現代に思うこと』

フリープロデューサー 木村政雄



我が家に子犬が産まれたらしい。らしいと言っているのは、まだその子犬に会っていないからである。家族は東京、仕事場は大阪と二重生活を始めてもう二十年以上になる。いつもは東京・大阪半々くらいのペースで過ごしているが、たまたま今週は大阪に居る日が続き、まだその子犬と対面していないというわけである。

情報は専ら女房の電話による。やれ、「二匹産まれて、残念乍ら一匹は死産であった」とか、「大きさがエクレアくらい」とか、「ミミー」という泣き声も電話で聞かされただけ。「女の子なので、名前はずラッキーにした」とか。何ラッキーなのか、よく分からない。そう言えば、最初に雄犬を買ったとき、次に雌犬を買ったとき

やうらめし気に隣の「女性車輛」を見やると、ガラランときいていて、なかなか快適そうである。つり皮の色も、ビシクに替えられても美しい。中には、二三人男性のか、はたまた確信犯なのか。恐らくは痴漢防止のために設けられたのであろうが、それにして

も私は命名に参加していない。各々に「ミツキー」「もも千代」という。よく分からない。カタ飯名にするなら、それはそれで統一すればいいものを。兎も角、「みんなで決めたから」というのが女房の常套句である。どうやら、私は「みんな」に入っていないらしい。「女性の言うみんなとは、たいてい三人である」という説がある。「みんな」の正体らしい。自分の思いを一般化するために、「みんな」という修飾語を使っているに過ぎない。一般化しおけば自らにふりかかるリスクを回避できるからである。大阪の地下鉄で採用されている、「女性専用車輛」というのもよく分からない。従来はラッシュ時に限って運行されていたのだが、九月からは平日に限って、終日運行になったらしい。先日、私ももう待ち待っている、いつもの位置で電車専用車輛」と書かれていて、慌ててサイド・ステップした記憶がある。混雑している一般車輛から、やちつかない思いをした。

もし、これが逆だったら、大変な騒ぎになっていた。女性も、一定の年齢を超えれば、フリー・エントリにすればいいのかもしれない。それとも、地下鉄などは、「女性専用」と「おばさん専用」いや、「元女性専用」と表示すれば男性の被害も軽減されるのかも。女性には「喜怒哀楽の感情を記憶する」といわれている。これに対する男性は「事実を記憶する」といわれる。遊園地へ行つたあと、女性は何が楽しかったかということとを覚えているが、どういう順序でまわったかは余り覚えていない。それは男性の役割だ。我が家でも、旅行のあとアルバムを整理するのは専ら私の役割で、女房に委せておくといつになっても、アルバムは完成しない。今、時代は大きく変わろうとしている。過去の延長線上の変化ではなく、変化そのものが変化しつつある。ヒエラルキー（階層）が存在し、強い求心力を持つ中心的存在があり、固い集団間の関係によって構成員が同じ方向を向いている時代から、上下関係がなくなり、一度点にばらけたあとのゆるやかな非階層的、開放的な関係が求められる時代に変わりつつある。べたべたした粘着質の付き合いよりも、強い個人の存在が期待されている。過去の事実を記憶するよりも、自らの想いを優先する

ことこそが求められる。変化の体験には痛みが伴う。過去のことを理解する方が、これから起こることを理解するより容易だからだ。我々は、痛みに耐えるから、変化への取り組み方を変えるかを選択しなければならぬ時に来ている。自転車には二つの車輪がある。後輪は車体に推進力を与え、前輪は方向づけを行う。変化に遭遇した時、人はおもに後輪的な反応。自分たちがよく心得ていることしかしかないことが多いのだが、本当に必要なのは前輪の技術、つまり変化する環境を入びとが理解し、受け入れるのを助けることなのだ。女性の時代なのだ。過ぎ去りつつある過去に拘泥するより、既得権益からフリーで、想いを優先する女性に前輪を委ねた方が面白い。きつと、自分の想いを「みんなが言ってる」といえないながら、オীগナイズしていくにちがいない。男性はサポーターする後輪を担えばいい。アリス・サージェントとその著書の中で、これからは男文化にこりかたまつた企業に女文化を取り込んで、最終的には両性型（アンドロジナス）にしなければならない。うち、「弱い男性」を護る「男性専用車輛」が出来るのかもしれない。

（二〇〇四年六月十九日の「創立三十周年記念祝賀会」の講演後に「寄稿頂いたものです」）

# 続・「科学と宗教」 最近の事情

岸 要

(昭和二十五年卒)



の対立的な思考に終止符を打ち、科学と宗教とを整合して新しい叡智を確立し、宇宙の真理に添った人類の未来を切り開いていく必要性を示唆しているのではないかと思う。」と結論した。

六年前、本誌第十六号に「科学と宗教」最近の事情の小文を寄稿した。

この結論の根拠は書店の書棚に数多く並ぶ科学と宗教分野の書籍を概観し、内容の特徴的な傾向から考察したものであった。

〔第十六号寄稿小文の要旨〕  
科学と宗教は長い歴史の過程で、離反対立の状態が続いてきた。

このとき、紙面の都合で文献紹介は省いたが数多い著書の中で次の著書に特に関心を抱いていた。

○「宇宙には意志がある」

ネ・パウロ二世が地動説のガリレオ・ガリレイの破門を解き、ダーウインの進化論を容認された。

○「生命の暗号」 桜井邦朋著 村上和雄著 (副題 サムシング・グレート)

一方先端的な科学者らは、「宇宙万物の秩序正しい現象は何か偉大な意志によって司られていると考えざるを得ない」と、宗教・哲学的見解を提唱され始めた。

宇宙を司る意志、サムシング・グレート、当時は個々に述べられた点的情報であった。

この現状は「今や科学と宗教と

流が活発に行われ、点的情報から

ら纏まった流れになりつつあることが書籍の出版傾向から窺われる。今回はこれらの流れを中心に述べる。

○「未知からのコンタクト」

桜井邦朋・村上和雄 共著

宇宙科学者と生命科学者が論

じ、宇宙の始まりから現在の壮

大な宇宙像、生命の起源から知

的生命誕生の不思議、さらに宇

宙の何処かの地球外知的生命探

索にまで議論が及ぶ。

「宇宙はある偉大な意志によっ

て創られた」

「生命はサムシング・グレート

(ある偉大な何か)の意志によっ

て創られた」

宇宙科学者と生命科学者との共

通した認識は「偉大な意志」サ

ムシング・グレート「神」と記

しても著者等は否定されないと

思う。

○「脳十心十遺伝子サムシング・

グレート」

(副題 人間とは何か)

養老孟司・茂木健一郎・

村上和雄・竹内 薫 共著

解剖学、脳科学、生命科学、科

学哲学、各分野の専門の立場から

自由に論じられている。

これらの科学書から教えられることは、宇宙を構成する物質も分子、原子、原子核・電子と元を辿れば電気的エネルギーの十一・一イオンの授受から成っており、人類の高度な生命活動さえ遺伝子のON/OFFという単純な働きに支えられていると言うことである。

然るが故に、著者等は人類に自然の法則に合致した謙虚な生き方を求めている。

地球上で知的生命の道を通った人類社会は複雑多岐な秩序・倫理によって営まれているように見えるが、人類もまた、宇宙・自然の中

の存在であれば、元を辿れば単純な原理に支えられているに違いないと思う。

例えば(「ドナー&アクセプター」)、与える者と受ける者、この均衡を基本と考える。自然界に生きる動物たち、弱肉強食の世界であり、強い虎は弱い動物を餌食とするが空腹を満たせばそれ以上は襲わない。餌食となる動物は旺盛な繁殖力で補って絶滅することなく生態系の安定と秩序を保っている。

人類社会も富める者(ドナー)は貧しい者(アクセプター)に与えて過剰な蓄えをしないという自

然の法則に従う謙虚さがあれば、平和と秩序が保たれる筈である。現実の社会は富める者はますます貪欲に蓄えて、貧者との間に不均衡を生じて、世界中至る所に悲惨な紛争を巻き起こしている。

今まで紹介してきた、宇宙科学、生命科学の各書は、人類はドナーとアクセプターとの不均衡を是正して自然の法則に謙虚に立ち返れと提言しているとも言える。

宗教の教理も同様に単純な原点に立ち戻れば異宗教間の醜い紛争は起こり得ないであろう。

以上、科学書を中心に述べてきたが、宗教側でもカトリックのパチカン市国では科学分野の研究が活発に行われている。

数年前、パチカン天文台でジョージ・コインという司祭の天文学者が宇宙科学最先端の地球外文明探査(SETI)の研究をされていることを知り、京都司教区の若い司祭に資料入手をお願いしたところ一両日で詳しい資料を届けて下さり、その迅速さに驚いた。

科学と宗教とを整合して人類の新しい叡智が生まれるのも遠い先ではないように思う。

5

# 定年退職にあたって

近藤 紘 一



年會に三人とも発表させることができた。覚悟はしていたが新しい研究室を立ち上げるにはかなりの資金が必要で、ピーカ、一つからそろえなければならなかった初年度から二、三年間、卒研費は消し飛んでしまい、とても備品の購入などおぼつかない。しかし、BK C キャンパス移転を機に、従来の立命館大学ではおそらくタブーであった産学協同研究を推進する方針のもと全国にさがしけりエゾンオフィスを中心とする推進機構が発足し、多くの会社から材料に関する相談を受けて受託研究費を得ることができ、また、ハイテクリサーチなどの私学助成金とともに定年まで大いにお世話になった。そのおかげで、試薬、ガラス器具など消費費だけで少なくとも毎月四十万

消え、卒研費だけでは到底まかなえなかった研究室を無事維持することができた。それにしても、当時、研究室には院生を含め卒研生毎年約二十人在籍していたが、よくこれだけガラス器具を破壊し、試験を湯水のようにドブに捨てていた状況のなかで、たいした怪我がなかったのはツキとしか言えない。

うが無い。もう少し日常の実験を細かく指導できていれば、まともな運営をできていたであろうが、国立大学に比べ三分の一の教員数は三倍の学生を見る私の現状ではどうして無理、研究指導の緻密化が今後のおおきな課題と慰めていた。その間、一九九六年から二年間就職委員会をおおせつかった。パブルがはじけ就職状況が厳しくなるなか、応用化学系の就職率は九〇%を越え、そのうち大企業へも一刻以上の上就職を実現していたにもかかわらず、就職委員会では大企業への就職は他学と比べ低いとの叱責を受け、執行部に呼びだされるはめとなった。機械、電気系企業の新卒採用数に比べ五分の程度の我が国の化学業界の実情に独れても理屈が多いと一蹴され苦しい思いをした。その後、終身雇用性が崩れ、リストラが続く中で、企業側の新卒に対する要求も「問題解決型」の学生が欲しいという方向に変わってきた。小学生の時から塾通いし、大学入試突破だけの問題の解答に慣れ、偏差値でしか判断できない悪弊のなかで過ごしてきた学生の大半は目標を失った「指示待ち型」になっていった。この時代も競争がなくなることはないであろうが、戦後、大学入試の通過を金科玉条としてきた罪は深い。さらに、今後、少子

化とともに大学進学が容易になる時代を迎え、これまでの入り難く出やすい大学の現況を改めることには誰も異論がないであろうが、細かく指導の上、サボッタ学生が容赦なく落とすという方法には教員側の覚悟が要求される。ともかく十年間の研究室生活で約一〇〇名

の卒業生、修了生を送りだすことができた。そのなかには国際学会で発表し世界的に注目を集める研究成果をあげ博士号を取得した院生も育ったことこの土のな喜びであった。この協力を戴いた皆様方にはこの紙面をかりて感謝の意を表したい。

近藤紘一先生と私はこのBK C キャンパスが開学された一九九四年に一緒に赴任してきました。爾来、先生は合成を中心に、私は構造・物性の分野を担当することで、高分子化学の教育・研究に関わってきました。その他に、先生は環境デザイン・インスティテュートの教育・運営にも関与され、また種々の役職を通して学系の運営、発展に尽力されました。先生は、真に明朗で親しみ易いお人柄ではありますが、物事の道理に外れることには喧しく、講義では学生の受講態度について常々厳しくしておられたようです。研究についておなじみで、特に合成では時間を費やすことを疎んじてはならじと、大学院入試の面接の時には、「君は朝何時に来て実験をどのくらい

やっているか」と必ず質問されたものです。斯様に、先生は折に連れて実験の重要さを説いて学生を指導され、その傍ら、自らも実験器具を手にしてこられました。特に「高分子非線形光学」材料の開発に精力的に取り組み、立派な成果を得ておられます。私は高分子合成に関しては全くの素人として、物を造る段になると先生頼みで研究を行ってきたので、今となっては新規に高分子を合成することを必要とする研究には手が出せないでいます。BK C で始まった十年のお付き合いを顧みますと、先生はやはり高分子合成のプロであつたなあと、十年早く合つていたらでいいなと、感慨深いものがあります。

## 近藤紘一先生の御定年退職にあたって

河口 昭 義

近藤紘一先生と私はこのBK C キャンパスが開学された一九九四年に一緒に赴任してきました。爾来、先生は合成を中心に、私は構造・物性の分野を担当することで、高分子化学の教育・研究に関わってきました。その他に、先生は環境デザイン・インスティテュートの教育・運営にも関与され、また種々の役職を通して学系の運営、発展に尽力されました。先生は、真に明朗で親しみ易いお人柄ではありますが、物事の道理に外れることには喧しく、講義では学生の受講態度について常々厳しくしておられたようです。研究についておなじみで、特に合成では時間を費やすことを疎んじてはならじと、大学院入試の面接の時には、「君は朝何時に来て実験をどのくらい

やっているか」と必ず質問されたものです。斯様に、先生は折に連れて実験の重要さを説いて学生を指導され、その傍ら、自らも実験器具を手にしてこられました。特に「高分子非線形光学」材料の開発に精力的に取り組み、立派な成果を得ておられます。私は高分子合成に関しては全くの素人として、物を造る段になると先生頼みで研究を行ってきたので、今となっては新規に高分子を合成することを必要とする研究には手が出せないでいます。BK C で始まった十年のお付き合いを顧みますと、先生はやはり高分子合成のプロであつたなあと、十年早く合つていたらでいいなと、感慨深いものがあります。

# 定年退職にあたって

谷利陸平



の習得に一年を費やし、研究は足踏み状態で終始します。

キャンパスの移転と大学院の充実、理工学部が立命館大学の中心となったことはすべての人が認めています。私はその間に立命館大学に在職し幸せでしたが、衣笠時代に学生時代を送った人は気の毒だったと思います。

での使用時間調整が大変でした。それが今のキャンパスでは、広々としたドラフト中ですべての合成実験が行えるようになり、最新鋭のNMRは何台もあり、研究せず遊んでいては申し訳ない気分でした。

新しいキャンパスは琵琶湖がよく見える見晴らしのよい所にあり、

私が立命館大学に来ましたのは一九九〇年で、理工学部が大変革をする準備をしている時でした。着任直前に草津市への移転が新聞紙上に発表され、それまで通学・通勤の時間が自転車です十分でしたので大変だと思いましたが、衣笠の実験室を見た時移転すべきだなと思いました。

衣笠時代に私が驚いたもう一つは、キャンパスが日暮れと共に西側隅を除いて真っ暗となり、夏休みになると学生がキャンパス内に見当たらず、生協も休んでしまうことでした。理工学部の学生の占める割合が少なかったためでしょうが、学生・院生にもっと実験しようと言っても無理でしたが、今では夜遅く実験室にいる学生・院生にもう帰つたらと言うように様変わりしました。実験室で仲間とわいわいやる応用化学系学生の楽しみが実現できました。

今後は若い有能なスタッフが研究・教育をなお一層充実され、応用化学の皆様が優秀な学生の確保に協力して下さることを期待します。

谷利陸平先生は、京都大学理学部から、一九九〇年に立命館大学に御着任されました。十四年間の在職中には、本学の教育/研究ならびに様々な業務は勿論のこと、衣笠から草津への移転やそれに伴う理工学部の改革/発展のためにも御尽力されました。特に、有機化学に関わる教育と研究に精力をそそがれて、多くの卒研究生を育てられ、谷利研究室の卒業生が、現在多方面で活躍されていると聞いております。

私立大学の経営が当時苦しいことは知っておりましたが、研究設備の貧しさは予想以上でした。実験室に小さいドラフトが一台あるだけで、ここで有機合成実験をするのは無理だと実感し、それまでの先生・学生の方々はご苦労だっただろうと思いました。また有機化学の研究で毎日使うNMRが化学科に一台あるのみで、研究室間

大学院が充実したため、研究の継続が可能となったこともすばらしいことです。毎年研究室の学生を総入れ替えしたのでは、機器の使用法、合成実験法、文献検索等

話になっていましたが、本学に移植してからも様々なことを御教示いただき、感謝いたしております。同じような思いを抱いておられる応化会会員諸氏も多いことと思っております。

継続が可能となったこともすばらしいことです。毎年研究室の学生を総入れ替えしたのでは、機器の使用法、合成実験法、文献検索等

退職後は特任教授として教育にたずさわりますが、とりあえず退職のご挨拶とこれまでのご厚誼に對して深く感謝を申し上げる次第であります。

先生がお使いになったお部屋はともきれいなところなので、昔からつとに有名でしたが、これからもゆつくりと実験室に回っていただいで、高所大所から叱咤激励頂きますようお願いいたします。今後も特任教授として、応用化学系の教育や研究さらには諸業務での世話になりますが、御健康に留意されつつ、益々ご活躍されることを祈念します。

大学院が充実したため、研究の継続が可能となったこともすばらしいことです。毎年研究室の学生を総入れ替えしたのでは、機器の使用法、合成実験法、文献検索等

退職後は特任教授として教育にたずさわりますが、とりあえず退職のご挨拶とこれまでのご厚誼に對して深く感謝を申し上げる次第であります。

先生がお使いになったお部屋はともきれいなところなので、昔からつとに有名でしたが、これからもゆつくりと実験室に回っていただいで、高所大所から叱咤激励頂きますようお願いいたします。今後も特任教授として、応用化学系の教育や研究さらには諸業務での世話になりますが、御健康に留意されつつ、益々ご活躍されることを祈念します。

大学院が充実したため、研究の継続が可能となったこともすばらしいことです。毎年研究室の学生を総入れ替えしたのでは、機器の使用法、合成実験法、文献検索等

退職後は特任教授として教育にたずさわりますが、とりあえず退職のご挨拶とこれまでのご厚誼に對して深く感謝を申し上げる次第であります。

先生がお使いになったお部屋はともきれいなところなので、昔からつとに有名でしたが、これからもゆつくりと実験室に回っていただいで、高所大所から叱咤激励頂きますようお願いいたします。今後も特任教授として、応用化学系の教育や研究さらには諸業務での世話になりますが、御健康に留意されつつ、益々ご活躍されることを祈念します。

大学院が充実したため、研究の継続が可能となったこともすばらしいことです。毎年研究室の学生を総入れ替えしたのでは、機器の使用法、合成実験法、文献検索等

退職後は特任教授として教育にたずさわりますが、とりあえず退職のご挨拶とこれまでのご厚誼に對して深く感謝を申し上げる次第であります。

先生がお使いになったお部屋はともきれいなところなので、昔からつとに有名でしたが、これからもゆつくりと実験室に回っていただいで、高所大所から叱咤激励頂きますようお願いいたします。今後も特任教授として、応用化学系の教育や研究さらには諸業務での世話になりますが、御健康に留意されつつ、益々ご活躍されることを祈念します。



民秋均

# 谷利陸平先生の御定年退職にあたって



# 生命情報学科の創設について

生命情報学科 学科長 長野正道



今年度、立命館大学BKICキャンパスに情報理工学部が設置されました。情報システム学科、情報コミュニケーション学科、メディア情報学科、知能情報学科、それと生命情報学科の五学科からなりまます。そのなかで生命情報学科は情報系とバイオ系の性格をもつ、わが国でも数少ない学科です。そのなかで生命情報学科は希有なうえ、育成機関も限られて在、わが国ではこの方面の人材はいます。この状況を打破し、立命館大学が二十一世紀の生物科学において創造的に貢献するために、生命情報学科を設置することになりました。

今日のライフサイエンスにおきましては、ゲノムの塩基配列やタンパク質の立体構造など、生物由来のさまざまな情報を従来の生物学の知識と結びつけ、細胞や個体での現象を再構築することで生命を理解することが重要になってい

ます。そのためには、これまでの

生体分子の理化学的性質の解析に

加えて、それらの相互作用やネット

ワークの時系列的な理解が必要

不可欠です。しかしながら、これ

らの情報はどれも膨大で複雑なこ

とから、従来の生物科学的手法で

は解析することが難しくとされて

います。そこで大学が、情報科学

をこの分野に応用した新しい生命

科学の教育・研究の場を提供する

ことが急務となってきました。現

在、わが国ではこの方面の人材は

希有なうえ、育成機関も限られて

います。この状況を打破し、立命

館大学が二十一世紀の生物科学に

において創造的に貢献するために、

生命情報学科を設置することとな

りました。

設置する学部については、いろ

いろ議論が交わされましたが、

ニューラルネットワークや遺伝的

アルゴリズムなどに見られるよう

に、さまざまな生命現象が計算機

理論に應用されてきていることか

ら、生命情報学科は情報理工学部

(クリエーションコア棟)に置くこととなりました。現在、ITとバイオの異分野交流が身近に行える教育研究環境を積極的に整えつつあります。カリキュラムは情報系、数物系、バイオ系からなり、

他の情報系学科をはじめ、応用化学系の科目とも相互乗り入れをして立体的に展開するように工夫し

ています。元化学学生物工学科の

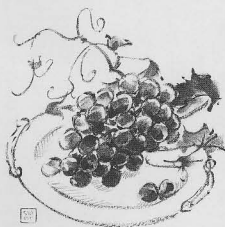
菊池先生、藤田先生を除いては新

任教員で構成されているフレッ

シュな学科ですので、今後とも、

皆様方からのご指導ご鞭撻の程を

よろしくお願いいたします。



## 会員だより

### 東北の温泉めぐり

水田 宣雄

(昭和四十一年卒)

定年退職を機会に東北方面の旅行を計画した。時期は四月下旬、湯治場めぐりと北国の遅い春を求めての夫婦二人二週間の旅である。交通手段は、移動の利便性からカーフェリーとマイカーを利用することとした。

出発地は、兵庫県の明石市である。早朝マイカーで出発、午前九時過ぎに敦賀港に到着。日本海を秋田港に向けて、二十時間ほどの船旅である。翌日早朝、定刻に秋田港に到着。日本海沿いに一路、青森県の黄金崎に湧出する不老不死温泉を目指す。三時間ほどで温泉に到着し、朝食もそこそこ、人目をばからず海岸の波打ち際に設けられた露天風呂に浸かる。多少湯温は低い、その名の示す通り黄金





# 企画運営委員会報告

篠原長政

(昭和四十三年卒)

企画運営委員会は、平成十年か

から東 正弘前委員長(昭和四十一年卒)のご提案により、応化会委員の親睦を目的として、「ゴルフ懇親会」(「徒行会(ハイキング)」の活動を進めています。

次回からは、去る七月二十五日の常任幹事会において、「ゴルフ懇親会」担当として、伴野 清委員(昭和四十二年卒)ならびに「徒行会」担当として、川口士郎委員(昭和四十年卒)にお願いする

ことになりました。

ゴルフあるいはハイキング(またはその両方)に参加ご希望の方は、是非応化会事務局までご連絡下さい。開催のご案内を致します。

一方、写真に興味をお持ちの方も是非応化会事務局までご連絡下さい。立命館大学写真研究会OB会(応化会ニュース第二十号参照)から開催のご案内を致します。

高、今後の活動については、企画運営委員会において検討の予定です

ですが、ご意見があれば是非お聞

かせ下さい。

応化会事務局電話

〇七七(五六二)二六五八

FAX

〇七七(五六二)二六五九

第十一回ゴルフコンペ

平成十五年十月十八日(土)

比良ゴルフ倶楽部において、長島幸則氏(三十七年卒)に幹事を

お願いして、ゴルフ懇親会を開催

しました。競技方法はダブルベリ

アにて行い、十五名の参加をいた

だいたなかで、大杉義則氏(三十

九年卒)が優勝されました。

平成十五年十一月十五日(土)

第八回「ボンボン山徒行会」

ボンボン山の正式名は「加茂勢山」ですが、ユニークなネーミングと京都市北部の市街地や東山、生駒山系の眺望が楽しめるため、幅広い層に人気があるそうです。

川口士郎氏(昭和四十年卒)を

リーダーに、九名の参加者があり

札幌に全員集合。神峰山寺、本山寺からボンボン山へ登り昼食、善峰寺(西国二十番札所)を経てJR向日町駅に到着。下山途中教えてもらった駅前の居酒屋(安くて美味しい店)で盛り上がりました。

第十二回ゴルフコンペ

平成十六年三月二十七日(土)

宇治カントリークラブにおいて、大杉義則氏(三十九年卒)に幹事を

お願いして、ゴルフ懇親会を開

催しました。競技方法はダブルベ

リアにて行い、十五名の参加をい

ただいたなかで、樋田克史氏(五

十四年卒)が優勝されました。

第九回「湖南アルプス徒行会」

平成十六年五月八日(土)

天狗岩をはじめ、奇岩や巨岩、

風化した花崗岩など、滝など変化

に富んだルートです。

川口士郎氏(昭和四十年卒)を

リーダーに、総勢十四名は午前九

時二十分にJR草津駅改札口に集

合。落が滝、縦走路合流点から天

狗岩(五百㍎)、耳岩を経てJR

草津駅に戻ってきました。大変

素晴らしい一日でした。大変

素晴らしい一日でした。大変

素晴らしい一日でした。大変

素晴らしい一日でした。大変

素晴らしい一日でした。大変

素晴らしい一日でした。大変

る。ランブの下での夕食、そして

源泉掛け流しの良質の温泉での入

浴である。もちろんテレビはなく、

聞こえるのは小川のせせらぎだけ

である。久方ぶりにゆつくりとし

た静寂な一夜を過ごすこととなっ

た。

翌日は、弘前市から青森市經由

で八甲田山麓の酸ヶ湯温泉に向か

う。途中立ち寄った弘前城の桜は、

タイミンクよく満開であった。雨

上がりのためか、関西の桜に比べ

透明感があり、花の色が際立って

見事であった。酸ヶ湯温泉は、古

くからの湯治場である。千人風呂

と称する総じバ造の男女混浴大浴

場で、白濁した酸性の湯に浸かる

と体の芯まで温まり心身が癒され

る。正に湯治場の湯である。

この後、十和田湖から八戸經由

で三陸海岸を南下し、湯治場を巡

るもののである。

りながら盛岡・角館・花巻を経て

仙台から太平洋フェリーに乗船し

帰途につくのであるが、折からの

悪天候で、陸路では時節はずれの

猛吹雪に遭い、海路は大シケの船

旅となった。後半は散々の旅行出

たが、これもまた旅の思い出とな

って深く心に残っています。この

間のことは、紙面の関係で詳しく

紹介申し上げることはできないが

また皆さん方とお会いしたときに

でもお話しさせていただく機会があ

るかも知れない。

昨今、入浴剤や塩素の投入で温

泉に対するイメージがいささか低

下したさいもあるが、まだまだ

全国にはたくさん魅力ある温泉

がある。これからも、心と体を癒

す湯治場としての姿をとどめてい

る温泉を求め、旅したいと願って

いるものである。

様が気軽に談談できる場所とし

て、応接室もありますので、お

気軽に立ち寄りください。

## 事務局だより

応化会事務局は、BKCIー

ストウイング六階の応用化学系

事務室内にあります。スタッフ

は、今年一月に武藤寿美子さん

から、小西昌子さんに交代し金

した。勤務は、月・水・金

の週三回勤務されています。応

用化学系事務室内には会員の皆



# 応用化学系紹介

現在、応用化学系は応用化学科と化学生物工学科の二学科から成り、合わせて三十五名の教員が在籍しています。本年三月をもちまして応用化学科の近藤純一教授と化学生物工学科の谷利陸平教授が定年により退職されました。また、本年四月に新設された情報理工学部生命情報学科に応用化学科の長野正道教授、化学生物工学科の菊池正和教授、鈴木健二教授、藤田典久教授および高橋卓也助教授の五名の先生方が移籍されました。一方、今年度は新しいスタッフとして、応用化学科に西尾悟教授、化学生物工学科に前田大光講師をお迎えしました。また、昨年度まで博士研究員として在籍しておられた平石裕之先生と平林博樹先生は、本年度から助手として活躍いただいています。昇任人事に關しましては、応用化学科の加藤稔先生と化学生物工学科の若山守先生が助教授から教授に昇任されました。

## 新任の先生から一言

### 西尾 悟



本年四月より理工学部応用化学科にお世話になっております。専門分野はレーザー光化学、表面化学、ナノ化学です。私は京都大学で導電性高分子に関する研究により博士号を取得した後、三重大学にてレーザーを用いた有機薄膜創製に関する研究を、その後、東北大学にて走査型トンネル顕微鏡を用いた局所反応制御に関する研究を行ってまいりました。縁あって本年度より本学科で極微機能化学研究室を開設させていただく運びとなりました。今後はこれまでの研究を発展させ、新規機能性有機ナノ材料を創製する手法を開発するとともに、その機能や構造をサブナ

ノレベルで直接評価できる装置を開発していきたいと考えています。学生の皆さんには、分野にとらわれない斬新な発想で研究を進める勇氣をもって、全く新しい領域を開拓してもらいたいと思っております。趣味はフルート演奏です。今後は立命館大学のスタッフの一人として微力ながら、教育、研究、文化創造に邁進していきたいと思っております。応化会の皆様にはこれからもいろいろな面でお世話になることと思っております。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

## 略歴

一九八八年三月  
京都大学工学部石油化学科卒業  
一九九三年三月  
京都大学大学院工学研究科分子工学専攻博士後期課程修了  
一九九三年四月  
三重大学工学部分子素材工学科助手

二〇〇二年四月  
東北大学大学院理学研究科化学専攻助教  
二〇〇四年四月  
本学着任

## 新任の先生から一言

### 前田 大光



本年四月、化学生物工学科に専任講師として着任いたしました。この三月に学位を取得したばかりで、新たな環境に戸惑うことも多く、日々勉強と思つて過ごしております。これまでは、有機合成を用いて生体色素分子ポルフィリンの異性体や骨格変異体を新たに創製し、その構造決定や物性評価を通じて、既存の分子にはない機能性の発現を行つてまいりました。実際に、一つの目標分子を得るまでに一年以上かかることもあり、それでも諦めずに試行錯誤の結果、「これだ」と思うベクトルを得たとき感動が現在の研究姿勢の基盤にあるような気がしています。

今後、本学においては、光化学や錯体化学、超分子化学と密接に關連づけながら、より生体の機能を意識した分子設計や合成、集積化を行い、さらにはナノスケールマテリアルへの展開を考えています。自分の経験もふまえ、新しい物質を作り出す意義や喜びを研究室の学生が感じられるような指導を心がけていきたいと思つてい

## 略歴

一九九九年三月  
京都大学理学部卒業  
二〇〇一年三月  
京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了  
二〇〇四年三月  
京都大学大学院理学研究科化学専攻博士後期課程修了

二〇〇四年四月  
博士(理学、京都大学)取得  
本学に着任

応化会名譽會員 敬称應

- 石井 猛
- 岩崎 弘通
- 大淵 仁志
- 岡本 勇三
- 北村 清
- 近藤 紘一
- 鈴木 十一
- 高橋 玲爾
- 竹内 良夫
- 立花 精
- 谷利 陸平
- 土屋 正夫
- 木井外代士
- 橋谷 博
- 林 暁
- 深海 隆俊
- 松田 二郎
- 三代澤良明
- 山下大二郎
- 山本 善史

応化会役員名簿(敬称應)

- 顧問 大原八十八 (30年卒)
- 吉田 巖 (27年卒)
- 田村弘三郎 (31年卒)
- 副会長 木村 碩志 (27年卒)
- 会長 北尾 舒彦 (39年卒)
- 藤原 長政 (43年卒)
- 谷口 吉弘 (40年卒)
- 立木 隆 (63年着任)
- 常任幹事 香山 彰朗 (31年卒)
- 岸 要 (25年卒)
- 上原 正巳 (34年卒)
- 松尾 義孝 (38年卒)
- 金川 篤治 (39年卒)
- 川口 士郎 (40年卒)

會計監査

- 富田 耕一 (27年卒)
- 岡本 朗 (32年卒)

▼年度幹事▲

- 専門学校 (一部工科)
  - 昭和18年卒 新谷 利保
  - 20年卒 野村祐三郎
  - 23年卒 桂 茂生
  - 24年卒 目片 昭芳
  - 26年卒 山田 吉之助
- (一部理科)
  - 20年卒 馬野 正敏
  - 22年卒 山田 益三
  - 23年卒 福味 幸司

庶務幹事

- 松田 四夫 (38年卒)
- 白石 晴樹 (47年卒)
- 藤田 典久 (51年卒)
- 藤田 豊 (54年卒)
- 花崎 知則 (平1年卒)
- 水野 純重 (平5年卒)
- 玉置 純 (平5年着任)
- 高木 一好 (平12年着任)
- 前田 大光 (平16年着任)
- 澤村 精治 (49年卒)
- 小島 一男 (52年卒)
- 加藤 稔 (院62年卒)
- 久保 幹 (平8年着任)
- 西尾 悟 (平16年着任)
- 富田 耕一 (27年卒)
- 岡本 朗 (32年卒)

短期大学

- 27年卒 榑 年雄
- 28年卒 岡田 克巳
- 24年卒 今達 緯治
- 25年卒 竹内 良夫
- 26年卒 八木 永治
- 19年卒 奥(安井) 悦
- 20年卒 西村 新一
- 22年卒 木村 一雄
- 25年卒 岸 要
- 26年卒 九鬼 敏隆

(一部化学科)

- 27年卒 富田 耕一
- 28年卒 磯島 文雄
- 29年卒 榑 本
- 30年卒 榑 本
- 31年卒 香山 彰朗
- 32年卒 岡本 朗
- 33年卒 磯野 田村喜美子
- 34年卒 花澤 明
- 36年卒 佐々木 豊

新制大学

- 27年卒 宇野 光造
- 28年卒 九鬼 敏隆
- 29年卒 八木 永治
- 30年卒 東 龍夫
- 31年卒 片山治市郎
- 32年卒 廣瀬榮二郎
- 33年卒 池田 茂
- 34年卒 上原 正巳
- 35年卒 寺井 良平
- 36年卒 山本 好春
- 37年卒 寺田 卓二
- 38年卒 藤井 博
- 39年卒 山本 修三
- 40年卒 天田 健治
- 42年卒 加納 修

(一部化学科)

- 27年卒 岩崎 弘通
- 28年卒 富田 耕一
- 29年卒 磯島 文雄
- 30年卒 榑 本
- 31年卒 榑 本
- 32年卒 榑 本
- 33年卒 榑 本
- 34年卒 榑 本
- 36年卒 榑 本

近藤 照雄

- 37年卒 大谷 芳野
- 38年卒 松本 篤治
- 39年卒 金川 幹生
- 40年卒 川口 義孝
- 41年卒 東 正弘
- 42年卒 野原 博之
- 43年卒 伴野 清
- 44年卒 篠原 長政
- 45年卒 伊藤 省二
- 46年卒 村上 俊男
- 47年卒 木村 俊久
- 48年卒 宮地 淳
- 49年卒 白石 晴樹
- 50年卒 寺石 雅和
- 51年卒 松本 浩一
- 52年卒 前川 昭
- 53年卒 河村 真也
- 54年卒 川澤 吉雄
- 55年卒 岡田 隆
- 56年卒 坂本 豊
- 57年卒 片山 勝隆
- 58年卒 北河 英次
- 59年卒 伊吹 和泰
- 60年卒 長谷川圭一
- 61年卒 菊池 英知
- 62年卒 田口 康人
- 63年卒 坂根 正恭
- 64年卒 栗津 尚之
- 65年卒 大山 良隆
- 66年卒 小川 久人
- 67年卒 桐村 寛

中村 俊博

- 4年卒 目片 秀明
- 5年卒 山口 均
- 6年卒 野川 雅章
- 7年卒 草野 富義
- 8年卒 野宮 智弘
- 9年卒 磯山 公一
- 10年卒 岡部 直樹
- 11年卒 山田 周子
- 12年卒 岩井 啓博
- 13年卒 川中さやか
- 14年卒 小池 竜一
- 15年卒 平本 義志
- 16年卒 山田 修司
- 17年卒 山本 幸子
- 18年卒 宇野 芳樹
- 19年卒 松宮 成和
- 20年卒 矢野 和介
- 21年卒 笠野 亮介
- 22年卒 籠橋福太郎
- 23年卒 廣瀬 琢磨
- 24年卒 網本恵美子
- 25年卒 川勝 論
- 26年卒 西田 悠里
- 27年卒 谷口 直哉
- 28年卒 原田 雅史
- 29年卒 水戸敬子
- 30年卒 山中 大樹
- 31年卒 池内 ゆず
- 32年卒 加藤 豊
- 33年卒 野田 悠太
- 34年卒 濱口 直之

中村 俊博

- 43年卒 長政 (43年卒)
- 副委員長 篠原 長政 (31年卒)
- 委員長 松本 幹生 (38年卒)
- 委員 川口 士郎 (40年卒)
- 伴野 清 (42年卒)

中村 俊博

- 44年卒 目片 秀明
- 45年卒 山口 均
- 46年卒 野川 雅章
- 47年卒 草野 富義
- 48年卒 野宮 智弘
- 49年卒 磯山 公一
- 50年卒 岡部 直樹
- 51年卒 山田 周子
- 52年卒 岩井 啓博
- 53年卒 川中さやか
- 54年卒 小池 竜一
- 55年卒 平本 義志
- 56年卒 山田 修司
- 57年卒 山本 幸子
- 58年卒 宇野 芳樹
- 59年卒 松宮 成和
- 60年卒 矢野 和介
- 61年卒 笠野 亮介
- 62年卒 籠橋福太郎
- 63年卒 廣瀬 琢磨
- 64年卒 網本恵美子
- 65年卒 川勝 論
- 66年卒 西田 悠里
- 67年卒 谷口 直哉
- 68年卒 原田 雅史
- 69年卒 水戸敬子
- 70年卒 山中 大樹
- 71年卒 池内 ゆず
- 72年卒 加藤 豊
- 73年卒 野田 悠太
- 74年卒 濱口 直之

中村 俊博

- 44年卒 目片 秀明
- 45年卒 山口 均
- 46年卒 野川 雅章
- 47年卒 草野 富義
- 48年卒 野宮 智弘
- 49年卒 磯山 公一
- 50年卒 岡部 直樹
- 51年卒 山田 周子
- 52年卒 岩井 啓博
- 53年卒 川中さやか
- 54年卒 小池 竜一
- 55年卒 平本 義志
- 56年卒 山田 修司
- 57年卒 山本 幸子
- 58年卒 宇野 芳樹
- 59年卒 松宮 成和
- 60年卒 矢野 和介
- 61年卒 笠野 亮介
- 62年卒 籠橋福太郎
- 63年卒 廣瀬 琢磨
- 64年卒 網本恵美子
- 65年卒 川勝 論
- 66年卒 西田 悠里
- 67年卒 谷口 直哉
- 68年卒 原田 雅史
- 69年卒 水戸敬子
- 70年卒 山中 大樹
- 71年卒 池内 ゆず
- 72年卒 加藤 豊
- 73年卒 野田 悠太
- 74年卒 濱口 直之

中村 俊博

- 44年卒 目片 秀明
- 45年卒 山口 均
- 46年卒 野川 雅章
- 47年卒 草野 富義
- 48年卒 野宮 智弘
- 49年卒 磯山 公一
- 50年卒 岡部 直樹
- 51年卒 山田 周子
- 52年卒 岩井 啓博
- 53年卒 川中さやか
- 54年卒 小池 竜一
- 55年卒 平本 義志
- 56年卒 山田 修司
- 57年卒 山本 幸子
- 58年卒 宇野 芳樹
- 59年卒 松宮 成和
- 60年卒 矢野 和介
- 61年卒 笠野 亮介
- 62年卒 籠橋福太郎
- 63年卒 廣瀬 琢磨
- 64年卒 網本恵美子
- 65年卒 川勝 論
- 66年卒 西田 悠里
- 67年卒 谷口 直哉
- 68年卒 原田 雅史
- 69年卒 水戸敬子
- 70年卒 山中 大樹
- 71年卒 池内 ゆず
- 72年卒 加藤 豊
- 73年卒 野田 悠太
- 74年卒 濱口 直之

中村 俊博

- 44年卒 目片 秀明
- 45年卒 山口 均
- 46年卒 野川 雅章
- 47年卒 草野 富義
- 48年卒 野宮 智弘
- 49年卒 磯山 公一
- 50年卒 岡部 直樹
- 51年卒 山田 周子
- 52年卒 岩井 啓博
- 53年卒 川中さやか
- 54年卒 小池 竜一
- 55年卒 平本 義志
- 56年卒 山田 修司
- 57年卒 山本 幸子
- 58年卒 宇野 芳樹
- 59年卒 松宮 成和
- 60年卒 矢野 和介
- 61年卒 笠野 亮介
- 62年卒 籠橋福太郎
- 63年卒 廣瀬 琢磨
- 64年卒 網本恵美子
- 65年卒 川勝 論
- 66年卒 西田 悠里
- 67年卒 谷口 直哉
- 68年卒 原田 雅史
- 69年卒 水戸敬子
- 70年卒 山中 大樹
- 71年卒 池内 ゆず
- 72年卒 加藤 豊
- 73年卒 野田 悠太
- 74年卒 濱口 直之

## 応化会2003年度（平成15年度）事業報告

### I. 諸事業

1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布	2003年4月
2) 2003年3月卒業生名簿作成	2003年9月
3) 応化会ニュース発行	2003年10月
4) 全会員への通信、会費請求	2003年10月
5) 在校生ソフトボール大会	2003年10月5日
6) 懇親ゴルフの会開催	2003年10月18日
7) 東海地区懇話会・懇親会	2003年10月25日
8) 徒行会の開催	2003年11月15日
9) 卒業記念パーティー	2004年3月21日
10) 懇親ゴルフの会開催	2004年3月27日

### II. 諸会議

1) 幹事会	
第1回幹事会	2003年6月7日
第2回幹事会	2003年11月16日
第3回幹事会・新年会	2004年2月22日
2) 各種運営委員会	
・応化会ニュース編集委員会 第1回	2003年6月28日
第2回	2003年9月20日
・地域別活動促進委員会 東海地区第1回委員会	2003年5月31日
東海地区第2回委員会	2003年7月26日
関東支部幹事会・新年会	2004年2月6日
・20周年記念誌編集委員会	
第1回編集委員会	2003年6月7日、第2回編集委員会 2003年6月29日
第3回編集委員会	2003年7月27日、第4回編集委員会 2003年9月21日
第5回編集委員会	2003年11月16日、第6回編集委員会 2004年1月16日
第7回編集委員会	2004年2月8日、第8回編集委員会 2004年2月22日
第9回編集委員会	2004年3月7日、第10回編集委員会 2004年3月20日
・20周年記念事業実行委員会	
第1回委員会	2003年12月18日
第2回委員会	2004年1月15日

## 2003年度（平成15年度）応化会決算

(単位:円)			
一般会計			
<収入の部>	予算額	執行額	
前年度繰越金	1,984,466	1,984,466	
会費(一般)	2,500,000	2,080,000	
会費(学生)	2,000,000	2,210,000	
寄付金	300,000	202,000	
雑収入	5,000	50,276	
<b>合計</b>	<b>6,789,466</b>	<b>6,526,742</b>	
<支出の部>	予算額	執行額	
総会開催費	0	0	
事業等補助金	200,000	18,000	
地域別活動推進費	700,000	687,391	
会議費	200,000	189,229	
印刷費	700,000	540,750	
郵送費	1,000,000	742,810	
人件費	500,000	458,100	
事務局費	50,000	47,947	
雑費	100,000	30,000	
提出金(特別会計へ)	2,000,000	2,210,000	
提出金(連絡協議会へ)	100,000	110,000	
在学生活動援助費	200,000	80,000	
振込手数料	100,000	57,170	
予備費	939,466	442,927	
<b>合計</b>	<b>6,789,466</b>	<b>5,614,324</b>	
次年度繰越金		912,418	
特別会計			
<収入の部>	予算額	執行額	
前年度繰越金	5,951,658	5,951,658	
提出金	2,000,000	2,210,000	
名簿売上	100,000	6,000	
名簿荷造送料	100,000	1,000	
雑収入	1,000	0	
<b>合計</b>	<b>8,152,658</b>	<b>8,168,658</b>	
<支出の部>	予算額	執行額	
名簿出版費	1,018,500	1,018,500	
名簿荷造送料	500,000	333,359	
人件費	500,000	433,200	
事務局費	200,000	18,865	
予備費	5,934,158	0	
<b>合計</b>	<b>8,152,658</b>	<b>1,803,924</b>	
次年度繰越金		6,364,734	

## 応化会2004年度（平成16年度）事業計画

### I. 諸事業

1) 在校生への「2003年度版会員名簿」配布	2004年4月
2) 立命館大学化学科出身の役職者交流会	2004年5月9日
3) 応化会総会	2004年6月19日
応化会創立20周年記念式典	
4) 応化会創立20周年記念誌発行	2004年6月
5) 2003年3月卒業生名簿作成	2004年9月
6) 応化会ニュース発行	2004年10月
7) 全会員への通信、会費請求	2004年10月
8) 在校生ソフトボール大会	2004年10月
9) 卒業記念パーティー	2005年3月20日
10) 懇親ゴルフの会開催	
11) 徒行会の開催	2004年5月8日、秋季

### II. 諸会議

1) 第1回幹事会	2004年4月25日
第2回幹事会	
第3回幹事会	
2) ニュース編集委員会	

### III. 支部活動（関東支部、東海支部）

## 2004年度（平成16年度）応化会予算

(単位:円)	
一般会計	
<収入の部>	予算額
前年度繰越金	912,418
会費(一般)	2,300,000
会費(学生)	2,200,000
寄付金	250,000
雑収入	5,000
<b>合計</b>	<b>5,667,418</b>
<支出の部>	予算額
総会開催費	800,000
事業等補助金	200,000
地域別活動推進費	300,000
会議費	200,000
印刷費	800,000
郵送費	1,500,000
人件費	500,000
事務局費	50,000
雑費	100,000
提出金(特別会計へ)	0
提出金(連絡協議会へ)	110,000
在学生活動援助費	200,000
振込手数料	100,000
予備費	807,418
<b>合計</b>	<b>5,667,418</b>
特別会計	
<収入の部>	予算額
前年度繰越金	6,364,734
提出金	0
名簿売上	10,000
名簿荷造送料	10,000
雑収入	1,000
<b>合計</b>	<b>6,385,734</b>
<支出の部>	予算額
名簿出版費	0
名簿荷造送料	50,000
創立20周年記念誌発行費	1,000,000
創立20周年記念誌送料	300,000
人件費	500,000
事務局費	200,000
予備費	4,335,734
<b>合計</b>	<b>6,385,734</b>